audite

Karol Szymanowski & César Franck:
Works for Violin & Piano

aud 97.726

EAN: 4022143977267

4 022143 977267

Record Geijutsu (Oki Nakamura - 01.11.2018)

Jap[redacted]he Rezen[redacted]siehe PDF!

新譜月評 室内楽曲

大木正純 中村孝義

大木正純●Masazumi Oki

[推薦] フランツィスカ・ペーチュは日本人ヴァイオリニストを生まれの女性。ピアノはドイツ人のデットレフ・シュネリスが担当。ヴァイオリンとピアノのための作品を集めたこのアルバムは、ドイツ・ハンブルクのクリスティアン・ヴェーバーによるプロデュースで、ドイツ・ヴェーゼルのシュロッス・ヒュッフ教会で行なわれたものだった。

[解説] 『ヴァイオリンとピアノのための作品』は、ステージでたびたび演奏されるものだが、このような録音が比較的少ないのは、ロマンスの域にはいってしまうこの作品が、レコーディングに適さないと思われているからだろう。ロマンスは、ヴァイオリンとピアノのための作品としてはもっとも有名な部類に入るが、ロマンスと

新譜月評

室内楽曲

大木正純　中村孝義

大木正純●Masazumi Oki

推薦　フランツィスカ・ピーチュは旧東ベルリン生まれの女流ヴァイオリニスト。一時ヴッパータール交響楽団のコンサートマスターを務めたほか、室内楽などでも広く活躍している。コンビを組むアイジンガーとのデュオでは、すでにアウディーテ・レーベルからグリーグのソナタ集そのほかもリリースしているが、日本ではこのシマノフスキ&フランクが先行する形になったようだ。

シマノフスキの《神話》は、ステージでしばしば取り上げられる割には、このところ新譜が比較的少なかった。《ロマンス》はさらに聴く機会が稀だ。ピーチュとアイジンガーは、さながら神秘という言葉を音にしたような《神話》を、濃厚な情念で満たして聴き手の耳を釘付けにする。《ロマンス》も妖しいロマンの香りが立ち上る渾身の熱演だ。どちらのインパクトも強烈。それに対してフランクのソナタでは、意外や意外、ヴァイオリンもピアノも肩の力を抜いたリラックス・モードでスタートする。やや意表を突かれる思いだが、しかし、のっけから髪の毛を逆立てるように始めるデュオが少なくない中で、このすっきりとした空気感が実は非常に好印象なのである。過度にごつごつしない第2楽章、一転、深い呼吸でしなやかに歌い上げた緩徐楽章、そしてここは粘着性の歌い回しで独特のやるせないムードを醸し出す終曲と、どれも優れて個性的。ディスクが星の数ほどもあるこの曲だが、これは一聴に値する。

■シマノフスキ：神話／ロマンス
■フランク：ヴァイオリン・ソナタ

フランツィスカ・ピーチュ(vn)デトレフ・アイジンガー(p)
[アウディーテⒹKKC5924]　¥3000

山之内正●Tadashi Yamanouchi

[録音評] ヴァイオリンとピアノどちらも音像の大きさが適切で，輪郭を強調することなく，自然な距離感を確保している。ベルリンのイエス・キリスト教会の優れたアコースティックを活かした余裕のある空間表現も聴きどころで，ヴァイオリンが弾ききったあとに残る余韻が非常に美しい。ヴァイオリンとピアノのバランスにも不自然さがなく，両者の余韻が空中できれいに溶け合う。〈93〉

中村孝義●Takayoshi Nakamura

推薦　かつて上岡敏之が音楽監督を務めていたヴッパータール交響楽団の第1コンサートマスターの任にあった東ドイツ出身の女流ヴァイオリニスト、フランツィスカ・ピーチュとミュンヘン出身のアイジンガーによるアルバム。私はこのヴァイオリニストのことを寡聞にして知らなかったが、なかなかの実力の持ち主であることがこのアルバムからも十分に窺い知れる。やや線は細めであるが、非常に繊細な美しい音の持ち主で、それが最初に収められている神秘感に彩られたシマノフスキの《神話》や《ロマンス》で特に圧倒的な成果を収めている。弱音の時に見せる、幽かな音から立ち昇るデリカシーに満ちた独特の透明感を持った表情は、まるでこの世ならぬ世界を現前させているようで、いわく言い難い霊妙な味わいを醸す。加えてアイジンガーのピアノも透明感を湛えた美しい音色でそれを支え、シマノフスキという作曲家の独自の世界を十二分に味わわせてくれる。メインとして収められたフランクのソナタがまた非常に魅力的な演奏だ。両者の音色の繊細な美しさや歌い回しの魅力的なことは基本的には変わらないが、フランクでは音楽にもっと太い芯と精神的な力強さがあることに配慮して、両者ともに音楽により力強さや実在感を加えて演奏。それによって聴き応えも十分。繊細で美しい歌を基調にしながらも、時に鋭く、また熱い情熱をもって作品の核心に切り込んでいくところなど作品の魅力を引き出すに十分な好演。

»audite« Ludger Böckenhoff • Tel.: +49 (0)5231-870320 • Fax: +49 (0)5231-870321 • info@audite.de • www.audite.de